

1. 学習項目

大きな数の計算

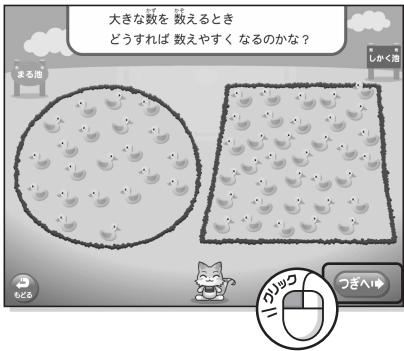
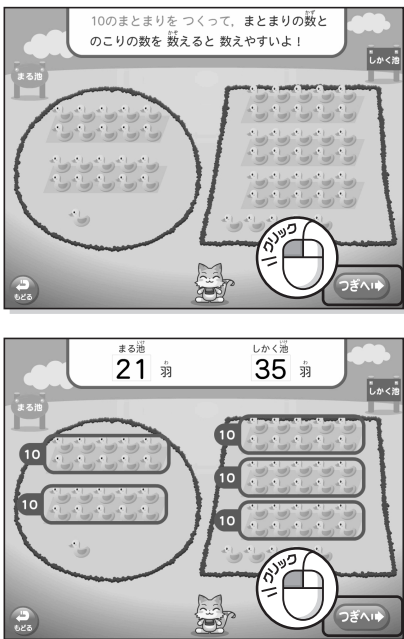
ソフト該当項目

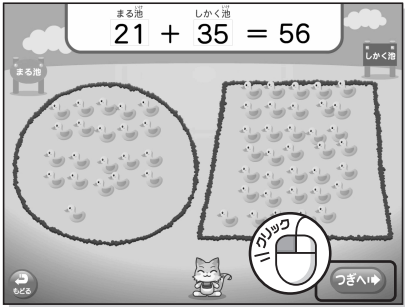
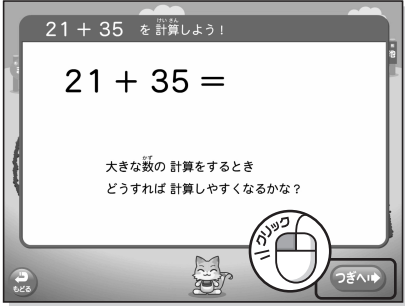
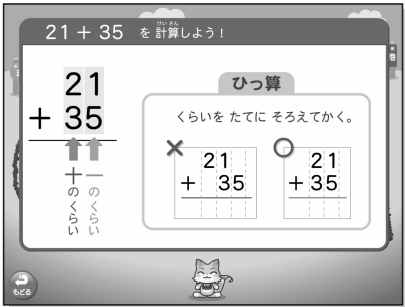
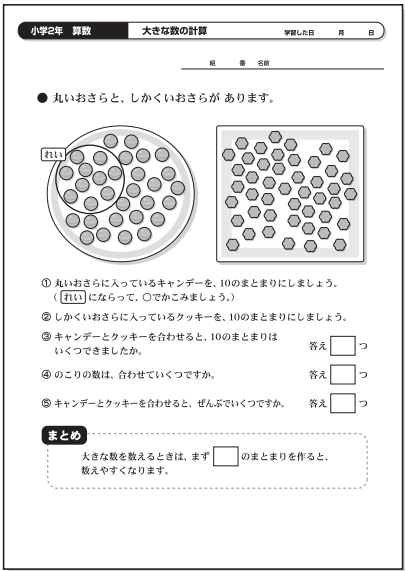
「たし算」大きな数の計算

2. 本時の目標

- ・ 2けたの数を、十の位のまとまりと一の位のまとまりに分けて捉えることができる。
- ・ 2けたのたし算の、計算の仕方が分かる。

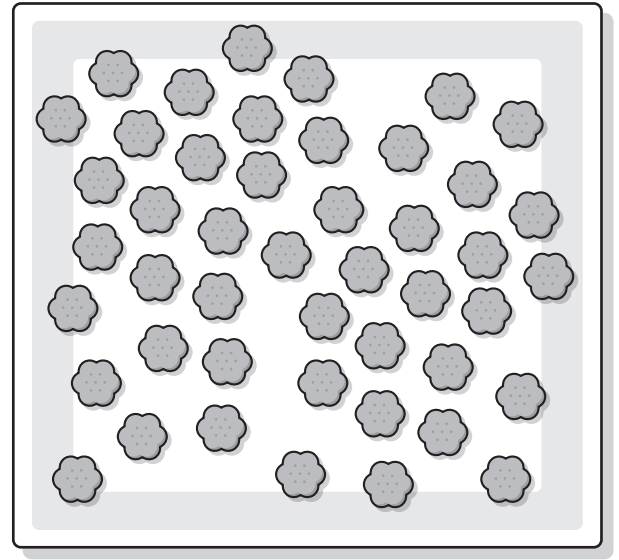
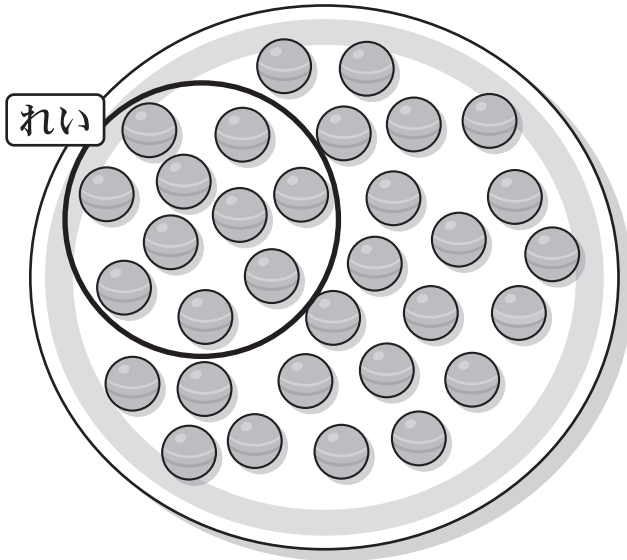
3. 本時の展開

	画面例	教師の働きかけ	児童の活動
つかむ	予めランドセルを起動し、画面1が表示された状態にしておく。 〈画面1〉 		
	運動会の玉入れで使用する玉など、実物で説明ができるものを予め用意しておき、説明の捕捉に使ってもよい。		
考える	「まる池には何羽いましたか？」 「しかく池には何羽いましたか？」 「そうですね。それでは一目見ただけで何羽いるか分かるようにしてみましょう。」 つぎへをクリック		
	「10のまとまりをつくって、まとまりの数とのかごりの数を数えると数えやすいよ！」  「10のまとまりに分けると、数えやすそうですね。」 「みなさん、できましたか？」 つぎへをクリック 「10のまとまりと、残りに分けられましたね。では、まる池としかく池のガチョウさんを合わせると何羽になるでしょう。」 「たし算の式を作ってみましょう。」 「どんな式になりますか？」 つぎへをクリック		

	画面例	教師の働きかけ	児童の活動
考える	 	「21+35=という式ができました。」 「大きな式ですが、どうしたら計算しやすくなるか、玉を使って考えてみましょう。」 「さっき作った10のまとまりに注目しましょう。10のまとまりは、全部でいくつありますか?」 「残りの数は合わせていくつですか?」 「10のまとまりはが5つあるので、合わせて50ですね。残りが6つですので、全部たすといくつですか?」 「そうですね。では、今度は玉を使わないで計算する方法を考えましょう。」 つぎへ をクリック	「どうやってたすの?」 「こんな大きな数、分からないよ。」 「全部混ぜて数え直すのかな。」 「さっきやったみたいに、10のまとまりにして別々にたし算すればいいんじゃないかな?」 「10のまとまりは5つあります。」 「1.2.3.4.5.6。6つです。」 「50+6=56だね。」
まとめる	 	「10のまとまりは、十の位を表しています。残りの数は、一の位ですね。同じ位同士を足せば、合わせた数が求められます。」 「ですから、大きな数の計算をする場合、このように、『ひっ算』という方法がとても便利です。」 「次の時間は、ひっ算の詳しいやり方を学習していきます。今日学習したところは、ワークシートで復習しておいてくださいね。」 ワークシートを配布する	「同じ位同士、分けてたし算すればよかったんだね。」 「『ひっ算』かぁ。どんなふうに計算するのかな。」

memo

- 丸いおさらと、しかくいおさらがあります。



- ① 丸いおさらに入っているキャンデーを、10のまとまりにしましょう。
(れい になって、○でかこみましょう。)

- ② しかくいおさらに入っているクッキーを、10のまとまりにしましょう。

- ③ キャンデーとクッキーを合わせると、10のまとまりはいくつできましたか。

答え つ

- ④ のこりの数は、合わせていくつですか。

答え つ

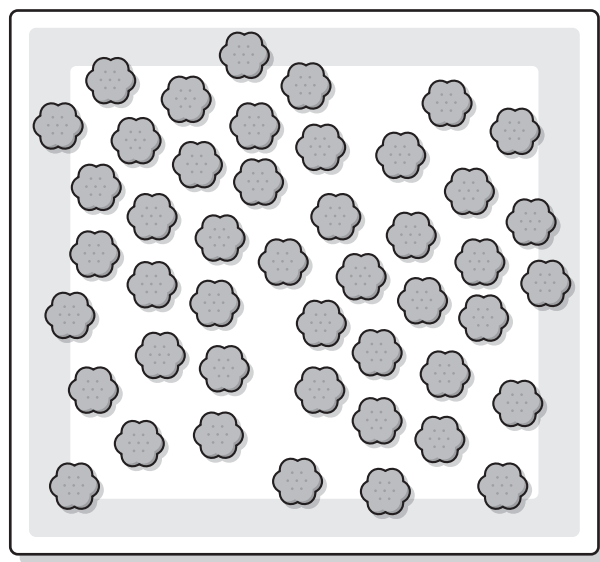
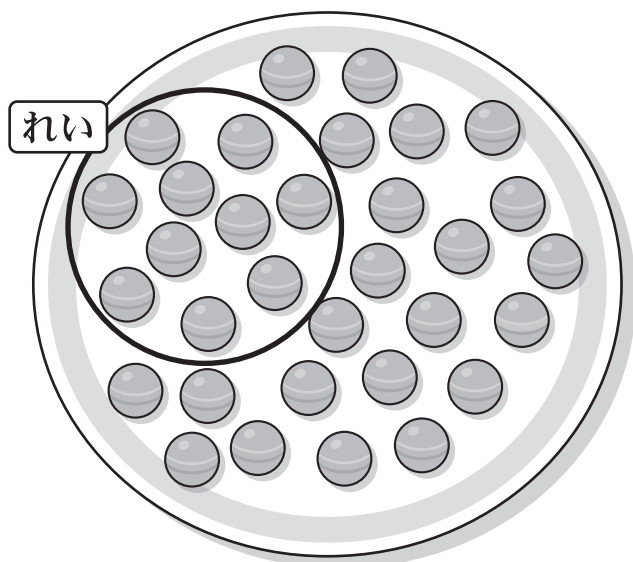
- ⑤ キャンデーとクッキーを合わせると、ぜんぶでいくつですか。

答え つ

まとめ

大きな数を数えるときは、まず のまとまりを作ると、数えやすくなります。

- 丸いおさらと、しかくいおさらがあります。



- ① 丸いおさらに入っているキャンデーを、10のまとまりにしましょう。

(れい になって、○でかこみましょう。)

- ② しかくいおさらに入っているクッキーを、10のまとまりにしましょう。

- ③ キャンデーとクッキーを合わせると、10のまとまりはいくつできましたか。

答え 7 つ

- ④ のこりの数は、合わせていくつですか。

答え 8 つ

- ⑤ キャンデーとクッキーを合わせると、ぜんぶでいくつですか。

答え 78 つ

まとめ

大きな数を数えるときは、まず 10 のまとまりを作ると、数えやすくなります。